

# 令和4年度学校関係者評価委員会報告書

世田谷区立深沢中学校

## 1 アンケートごとの評価

### I. 生徒のアンケートより

- ・回収率 全学年で334通の回答があった。回収率は84.3%である。
- ・生徒の教育活動に対する評価に関して、学習指導については「授業では、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある。」94%、「先生は、映像やタブレットなどのICTを利用し、分かりやすい授業をしている。」95%、「先生は、提出物やテストなどを分かりやすく評価している。」84%の3項目の評価が昨年度より高くなっている。
- ・キャリア教育について「私は、キャリア・パスポートに書いた目標について、考えて行動している。」72%は昨年度より高くなっているが、「自分の進路や将来の仕事について、考える授業がある。」70%「学校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している。」69%の項目は、昨年度を下回っている。アンケートの実施時期の影響もあるかもしれないが、キャリア・パスポートの活用も含めて生徒への適切な情報発信を進めていく必要がある。
- ・「自分には良いところがある」78%は、昨年度よりは肯定的回答が減少している。学校行事は昨年度よりは実施できることが増えたが、地域活動等で活躍する機会が少ない状況が続いており、自身の良さを自覚することができていないと思われる。
- ・学び舎の活動については、昨年度に比べると否定的回答が減少しているが、低い状況である。コロナ禍の落ち着きを受け、生徒と児童が交流する機会を増やしていきたい。
- ・「私は、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。」78%「思いやりの心を持って行動している。」88%はともに昨年より評価が高くなっている。落ち着いた生活を送っている様子が見える。

### II. 保護者のアンケートより

- ・回収率 全学年で93通の回答があった。回収率は23.5%。今年からweb(2次元コード)によるアンケートの実施となり、昨年度より大幅に回収率が下がってしまった。回収率を上げる工夫をする必要があると思われる。
- ・「本校は、映像やタブレットなどのICTを利用し、分かりやすい授業をしている。」73%、「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい。」94%、「本校の教育活動は、子どもの成長につながる。」82%等については、昨年度よりも肯定的評価が高くなっている。
- ・キャリア教育については、「本校は、キャリア・パスポートの目標について子どもに考えさせる指導をしている。」54%は昨年度よりもやや上がったものの高いとはいえず、「本校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している。」62%は昨年度よりも下がっている。保護者への伝え方が十分でなかったことが大きな要因となったと思われる。
- ・部活動については、「部活動は、子どもにとって達成感がある。」85%は昨年度よりも上がったが、「部活動は、子どもにとって楽しい。」83%はやや下がっている。生徒が部活動に期待する内容が変化してきている面もあると考えられる。
- ・学校行事については、今年度は保護者の参観が少しずつ緩和されたこともあり、どの項目も高い評価となっている。
- ・「本校は、地域に情報を提供している。」52%「学び舎」の区立(幼稚園)小学校について情報が提供されている。」59%「本校は、自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している。」70%等、地域への情報発信の項目について昨年度よりも肯定的な評価が下がっている。コロナ禍の影響で、情報の受信・処理能力に差が出ている(故に評価が下がる)ことも原因の一つと考えられる。外部広報の取り組みの面では、広報のやり方を一工夫する必要があると思われる。

### III. 地域の方のアンケートより

- ・回収率 学校協議会委員(出張所、消防、町会長、青少年委員等)73名にアンケートを送付し、37名から回答をいただいた。回収率は51%。保護者と同様web(2次元コード)を利用したが、紙面アンケートを併用したことで保護者ほどの落ち込みはなかった。
- ・学校行事について「事前の準備や当日の案内などで、地域への配慮がある。」79%は昨年度よりも肯定的な評価が高くなっているが、他の項目についてはまだ、肯定的回答が少ないので、さらなる工夫改善に取り組み向上を目指してほしい。

## 2 評価項目ごとの評価

### I. 重点目標について

- ・「本校は、保護者に指導の重点を伝えている。」という評価項目では、肯定的回答が保護者において79%、地域において81%である。保護者の評価は昨年度より上がっているが、地域は横ばい状況であり、その目的も含め学校だよりや学年だより等様々な方法で引き続き保護者に周知していく努力を行い共通理解をさらに深めていく必要がある。
- ・キャリア未来デザイン教育に関して、実際に成果を感じられるようになった時期が、アンケートの実施時期後であったため、数値に出てこなかったのが残念である。保護者への周知・啓発を進めていくよう求めたい。

### II. 地域とともに子どもを育てる教育について

- ・「地域の人材や施設を教育活動に活かしている」の項目では、保護者・地域ともに肯定的回答が昨年度より5%減となっている。
- ・学校協議会の項目では、肯定的回答60%、わからない率24パーセントとなっている。地域への周知方法の改善が必要である。
- ・昨年度から加わった「地域に情報を提供している。」の項目については、わからないの割合が49%となっている。学校の情報が地域へ十分伝わっていないようである。協議会、運営委員会などの役割・仕組みが低下している。今後改善を期待したい。

### III. 未来を担う子どもを育てる教育について

- ・学習指導において生徒の「考えたことを話し合ったり、発表する機会が増えた」「ICTを活用しわかりやすい授業をしている」の項目への評価が高くなっているのは良い。さらに維持・向上させていく努力を望む。
- ・教科「日本語」の学校自己評価について、肯定的評価の割合は昨年度とほぼ同等である。「日本語」についての共通認識をはかるとともに充実について工夫・改善、指導体制の研修を、引き続き推進していくことを願う。
- ・生活指導においては、肯定的回答が昨年度と同等のものがほとんどだが、生徒アンケートにおいて一部肯定的評価の割合が下がった。学校の生活指導方針や生徒の学校での様子を様々な方法で家庭に伝え、教職員内で学校のきまりやルール、対応の仕方などの確認と共通理解を図ってほしい。
- ・学校行事においては、保護者アンケートにおいて肯定的評価が高くなった。コロナ禍ではあるが少しずつ保護者の参観もできるようになった。生徒の自己肯定感が高まるよう、今後も事前・事後の活動・指導を含め、学校の継続的な努力をお願いする。
- ・相談活動においては肯定的回答が多い。あいあいタイムを継続し、今後も生徒・保護者と学校との信頼関係を高めていくことを望む。また、保健室・カウンセラーとの連携をさらに強め、教室に行けない生徒たちへの支援を引き続きお願いしたい。

IV. 信頼と誇りのもてる学校づくりについて

- ・おおむね良好な評価である。
- ・保護者・地域・教職員において全て高い肯定的評価である校長のリーダーシップのもと、教職員が協力して教育活動に励んでいる様子について、保護者や地域にきちんと伝わっていることがうかがえるので、継続してほしい。

V. 教育環境の整備について

- ・全体的に、訓練や本校施設の安全性について、肯定的回答が昨年度と同等であった。新校舎の安全性について、引き続き保護者や地域へ積極的に情報提供し、周知と理解を徹底してほしい。
- ・各種訓練については、実態に即した内容の見直しを行い、適切に行われることを望む。

VI. 学校生活全般について

- ・保護者アンケート「本校の子どもは学校生活が楽しいと感じている」86%、独自項目「友達と学校で活動することは楽しい」88%と生徒・保護者ともに充足度がかなり高いといえる。
- ・生徒アンケートにおいても「毎日の学校生活が楽しい」88%と肯定的回答がおおよそ3%昨年より増加している。
- ・生徒の自己肯定感が高められるよう、心の教育を推進していくことを願います。

VII. 「学び舎」の目標について

- ①自分にはよいところがあると思いますか。 評価結果 78%
- ②友達と学校で活動することは楽しい。 評価結果 93%
- ③自分が住んでいる地域は好きである。 評価結果 85%
- ・昨年度との比較では「①の自分にはよいところがあると思いますか。」4%減、「②友達と学校で活動することは楽しい。」「③自分が住んでいる地域は好きである。」は昨年度と同等である。①について自己肯定感が低くなっており、次年度への課題である。生徒が学習面だけでなく、学校行事や部活動、地域行事などいろいろな場面で活躍できる機会を作り、生徒が前向きになれる指導を強く願いたい。

3 学校自己評価について

I. 学校自己評価の方法は適切であるか

- ・適切に実施されたといえる。

II. 学校自己評価の結果の内容は適切であるか

- ・おおむね適切な内容といえる。

III. 学校自己評価の結果を踏まえた改善方策は適当であるか

- ・各分掌において、自己評価で出された改善点を確実に引き継ぎ、教育活動の質をより高めていただきたい。

4 学校の課題及び学校への提言

○アンケート集計結果より、全体的には今年度も良い評価結果である。今後も継続努力し、さらなる向上を目指していくこと。  
○地域との連携において、生徒の地域行事への参加や地域清掃等のボランティア活動を実施することで、地域とのつながりを増やすとともに、未来の担い手としての意識を育て行くこと。また、学校が地域とつながり外に出ることが、家庭と地域をつなぐ機会をつくることになると考えられる。積極的に地域との連携を進めてもらいたい。  
○保護者が学校の教育活動について得る情報の多くは子どもからである。思春期の子どもたちから伝わる情報は多くない。広報活動により保護者の知る情報と、実際に子どもが行っている教育活動のギャップを小さくすることが大事であり、保護者や地域との信頼関係を作ることになると思われる。コロナ禍でやむを得なかった面はあると思うが、学校における子どもの姿を見せることが、親の学校に対する理解を深めることにつながると考える。  
○学校だよりやホームページの工夫により、生徒の活躍の様子が地域や関係機関に伝わるようさらなる改善を行うこと。  
○学校公開の際に、授業参観だけでなく、保護者が授業体験をする機会を設けてはどうか。タブレットの活用やキャリア教育等、世代によるギャップを体験することで、子どもへの理解や学校に対する理解が深まると考える。

5 総合所見

Webによるアンケート実施のため回収率は低くなったが、保護者アンケート、生徒アンケート、地域アンケート、学校自己評価アンケートの集計・分析については適正に行われている。地域の幼稚園・小学校の子どもは中学校を目指してくる。中学校がリーダーとして、各方面へ発信していくことはできないか。コロナ禍で過ごしてきた子どもたちは、大人への信頼が低くなっていると思われる。校長のリーダーシップの下、保護者に学校の教育活動に対する理解を深めてもらう機会を増やし、地域と協力して「自らの手で未来を拓き、夢を育む学校」を実現することを期待する。

令和4年度 世田谷区立深沢中学校 学校関係者評価委員会							
委員長	井坂	聡					
委員	青柳	義博	菅田	輝代志	谷岡	美貴	外館 孝則
(事務局)	高林	敏彦	佐藤	哲	山口	拓也	深沢 享史